

貯水池の水位回復を図る

～穂ばらみ期終了～

- 大崎平野の「穂ばらみ期」は終了したと見られ、上流ダム群（鳴子ダム、岩堂沢ダム）の連携や利水者との調整により、「穂ばらみ期」を乗り切ることができました。
- 今後は鳴子発電所再開のため、貯水位回復に努めます。
- 下流河川の生態系保護のための放流として、鳴子発電所再開まで非常用バルブからの放流は継続します。

- 遅れていた一部地域についても「穂ばらみ期」は終了いたしました。
- 今後も江合川における生態系維持のため、河川流量の補給を行い、河川環境の保全に努めながら水位の回復に努めます。
- 鳴子発電所の運転再開は貯水位EL232mを上回りさらに6m³/sの連続運転が長期間確保できる状態までの貯水位回復（流入量の変動を考慮しEL233m以上）が目安となります。
※ただし、本年度当初からの計画により9月24日～11月9日迄は発電所修繕工事により停止の予定

別紙資料参照



貯水池の状況（9月5日現在）



非常用バルブ放流の状況（8月21日撮影）

鳴子ダムホームページ<http://www.thr.mlit.go.jp/naruko/>にも掲載します。

※発表記者会 古川記者クラブ
石巻記者クラブ

<問い合わせ先>

国土交通省 東北地方整備局 鳴子ダム管理所

所 長 松川 正彦

専 門 職 浅野 隆郎

TEL 0229-82-2341 FAX 0229-83-3855

～ 渇水を振り返る～

○太平洋高気圧などにより**少雨**でありました。

・鳴子ダム周辺ではピンポイントで降雨が少ない状態でした。

○**過去最大級の渇水**でありました。

・平成6年以降、**18年ぶりに非常用放流バルブ**により緊急的にかんがい用水の補給を行いました。

○**計画的に情報交換**を行いました。

・6月5日江合川水系利水計画打ち合わせ会を開催しました。

・7月8月の天候予測、例年の貯水池状況から8月の渇水を予測しました。

・6月期から**ダムの貯水量確保と有効な水利用について確認**しておりました。

○**厳しい条件の下で有効なダム運用**を実施しました。

・大崎地域水管理協議会(土地改良区や農家)や東北電力(株)と**8回にも及ぶ利水調整会議**を実施しました。

・最低水位以上の容量で計画的にダム運用を行い**厳しい条件下を乗り切り**ました。

・9月5日10時より河川の環境用水の確保及び水路の維持用水の補給に努めます。
(鳴子ダム4.5m³/s 岩堂沢ダム0.1m³/sを放流)

～ 鳴子ダムの効果～

厳しい貯水池状況の中で計画的にダムを運用したことにより

○食糧基地である大崎平野の収穫量約10万tの40%(4万t)の水稻区域に水を補給。宮城県37万tの約10%の**米を減産無く確保**することが出来ました。

○鳴子発電所の運転継続に極力努めると共に、下流にある池月発電所の取水量を最大限確保し発電を行うことが出来ました。

○補助基準地点(末沢)での**環境用水の確保**に努め、サクラマスやウグイ等の**生態系の保全**ができました。(補給期間7月18日～8月31日補給量14,700千m³)

○今回の渇水を教訓に関係機関が一丸となって取り組む**堅固な体制**を作り上げる**ことができました**。